

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		一般社団法人ハンズハンズ 未来育デイ		公表日		R7年 2月 13日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		適切である。	さらに用途によって使い分けられると良い。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	一人一人の状態を把握、個別対応が必要な子の支援を共有し、安全にお預かりすることができるよう配置を工夫している。	自立度が高い子が多い日も、帰り支度などバタバタする時間帯は手薄になり、忘れ物が重なる日がある。さらに手厚い支援を行うために、配置数を増やせると良い。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	視覚情報に強い子が多いので、視覚支援を取り入れ、活動動作の手順や各空間のルール等わかりやすく示している。	生活空間が2階であり、バリアフリーは難しいところもあるが、子ども自身が気をつけるという意識をもつことを、適切な支援の中で育てていきたい。職員配置や危険回避のための視覚支援を工夫していきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		活動内容ごとに机の配置を工夫して、落ち着いて活動できるような空間づくりをしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じてクールダウンの場所を設けている。	部屋が賑やかなとき、騒がしいときはさらに間仕切りできるカーテン等があると良い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		適宜常勤職員で話し合い、業務改善に努めている。非常勤職員も意見を出しやすい空気感ができており、多角的に物事を見ることができている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎年、保護者向け評価表の結果をもとに改善できそうなところを社員で話し合い、できることから改善に向けて動いている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		月に一度、定例会議が行われている。その中で個別の支援、生活空間等に対する意見があれば必要に応じて改善できるよう努めている。	デイだけでなく、日中・就労Bとも連携しながら成長を見守っていきけるような環境づくりをしていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5		第三者による外部評価の機会は現在設けていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		常勤職員は外部の研修を積極的に受講し、学んだことを職員間で共有している。年2回の全体職員会の際に外部から講師を招き、研修を行っている。	虐待防止や防犯、救急救命等の研修を受講しているが、障害特性や具体的な支援等、直接支援の質の向上に関する研修があれば受講したい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページにて公表されている。	適宜プログラムを見直し、質の向上に努めていきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		標準化されたアセスメントシートにて、保護者目線の子どもの状況を把握し、職員による行動観察等を踏まえてニーズや課題の分析に努めている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		児発管が作成した原案をもとに、児童指導員、保育士の意見を取り入れて検討している。子ども本人がワクワクするような計画作成に努めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画を職員間で共有することができている。適宜計画を見直し、支援を検討することができている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		毎年保護者にアセスメントシートを記入していただいている。日々の行動観察等から読み取れる子どもの心身の状態や課題等を職員間で共有している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインを読み込み、個々の状態に応じた必要な項目を設定することができるよう複数の目で確認しながら取り組んでいる。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		常勤職員で立案し、発達段階に応じたねらいや内容を定めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		新しい活動について職員同士で発信しあい、落とし込めるよう工夫している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		支援開始前には、その日の支援にあたり必要となる情報を共有している。役割分担や必要な情報共有をこまめに行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	些細なことでも話をして様子を振り返り、改善策を出し合うなどやりとりがしやすい雰囲気、環境を作ることができている。	就業時間や送迎の都合で、振り返りの時間をもつことが難しい日が多い。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		活動記録用紙にて個別の支援、様子を記録している。支援によって見られた成長や課題等を出し合い、改善につなげることができている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		年2回のモニタリングが必ず行われている。またそれを踏まえた計画の見直しが行われている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	7		個々の子どもの特性、発達段階に応じてかわり方を工夫し、子どもの意思を汲み取ったり、自分の意思をアピールする方法を身につけることができるよう取り組んでいる。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児発管が参加している。参加前後には、児童指導員や保育士と、こどもの状況について共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		保護者を通して情報を共有している。	必要に応じて直接連絡をとり体制を整える。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		保護者を通して情報共有がされることが多いが、必要に応じて学校へ直接連絡をとり、情報共有をすることもある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	保護者や相談支援専門員を通して情報共有を行っている。ほっぷすてつぷじゅんぶの記録や発達検査の結果等を見せていただくこともある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			学校や相談支援専門員から情報提供がされることが多いが、必要に応じて行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3		現在はそのような機会を設けていない。今後機会があれば研修の受講や、助言をいただきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	利用者のきょうだいとの交流を設けている。	機会があれば行いたい。知識や理解があまりない定型発達児との交流をもつのは、利用者や他のこども、お互いにとって負担が大きくなる可能性が高く、難しいと感じる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	こども部会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々の活動記録用紙にてその日のこどもの様子成長や課題を伝えている。状況に応じて、LINEや電話等でお伝えすることもある。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	保護者会を行っている。さまざまな視点からこどもの発達を捉え、特性に応じた支援を家庭でも取り入れていただけるよう研修を行っている。	働いている保護者も多く、ペアレント・トレーニング等を計画的に行うことは難しい。日々の忙しい中でも確認しやすいような形で、情報提供等がこまめに行えるよう努めたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時にすべて説明している。問い合わせがあればいつでも回答している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		モニタリングの際に、保護者の意思を確認している。発達段階に応じて、面談の機会を設け、こどもの意向を確認している。	自分の意思の表出が難しい子に対して、その子の表情や日頃の行動等から意向を汲み取るようにしているが、確認が得られず児発管の思いが表れた計画になってしまうことがある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		作成後、保護者にお渡しし、確認していただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		相談があった際は、こちらのもちうる情報を提供し、助言を行ったり、支援を見直したりしている。	常勤職員に子育て経験者がいないため、保護者目線の対応や助言が難しいと感じることがある。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		夏の保護者会で、話し合いの項目に沿って意見交流を図り、保護者同士だけでなくパートの職員も参加し交流することができてよかった。	おたのしみ会等の行事に、ごきょうだいの参加もしていただけるよう案内をしているが、きょうだい同士の交流の場を提供することは難しい。今後イベントの内容を検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情対応マニュアルを設定し、対応することができるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月の通信の発行、Youtubeチャンネルの更新を行っている。行事の案内や、悪天候時の対応等について、適宜公式LINEからお知らせしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		契約時に、個人情報の取り扱いについて説明し、承諾書への記入を依頼している。Youtubeへの投稿に関する承諾は毎年いただいている。	Youtubeへ投稿する前に、何度もいろいろな人の目で見て個人情報が載っていないか確認するが、見落とすときもあるため、より多くの職員で確認していきたい。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		子どもそれぞれが一番意思を伝えやすい方法を模索し、職員間で情報を共有し、できるだけ意思を汲み取ることができるよう配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	行事の際に、ポスターやHP等で参加を呼び掛けている。今年度のクリスマス会には、保護者だけでなく、地域の方も招待し参加していただいた。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		年2回行っている。公式LINEから各マニュアルの存在を周知し、問い合わせに応じて情報を開示することができるよう整えている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		年2回行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		服薬や予防接種、発作等の情報について、保護者に共有していただいて、職員間で周知している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		医師の診断を受けたご家族の依頼により対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成し、必要な研修や訓練を適宜行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットの記録用紙を用いて適宜記録をとっている。再発防止策を検討し、職員間で情報共有をしている。	ヒヤリハットに該当する事項についての認識が、職員により個人差があると感じる。ハインリッヒの法則を適宜見直し、安全管理を十分にしていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		全職員が毎月虐待防止チェックリストを記入している。年2回の全体研修を行ったり、機会をとらえて研修の機会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		対象児の現在の状況を正しく把握し、身体拘束等をしない支援の在り方を常に検討している。説明書、同意書を作成し、計画にも記載している。		